

1/30 新徳山駅シンポジウム質疑応答（発言要旨）

シンポジウム当日に質疑応答された内容の要旨です。なお、質問は当日入場者、回答はパネリストならびに市担当者が行いました。

Q 新駅ビルの図書館は図書館法上の図書館ということだが、地域資料の収集や読書推進や教育の振興などの任務は果たせるのか。

A（教育長） 質問にあったような図書館の機能は既存図書館でこれまで通りきちんと果たしていく。新しい図書館では、全ての世代の人のニーズに特化した選書を実施し、既存の図書館より賑わいに貢献するような図書館として役割分担していく。

Q 駅ビルは全面ガラス張りであり、災害時、特に震災時にガラスが降り注ぎ危険ではないか。

A（市担当者） 駅ビルは通常の基準の1.5倍程度の強度を持つ強靱な建物として設計した。また、建物の各階が階段状の構造になっているため、万が一の場合でもそれぞれの階のバルコニー部分でガラスを受け止めるので、ガラスが地上まで落下することはない。

Q 駅の賑わいが商店街の賑わいになるのか。

A（パネリスト） 駅ビルは商店街の中にある施設と考えている。また、商店街で賑わいを作れるかどうかは商店主の努力に寄るところも大きい。商店主はそれぞれどうやったら賑わいが出せるか常々考えている。応援してほしい。

Q 9,000名を超える住民投票を求める署名が集まったことについて考慮する必要がないと市長が発言したと聞いているがどういう理由でそのような発言をしたのか。

A（市長） 「考慮する必要がない」とは発言していない。「今現在、直接意思確認をする必要性はないと感じている」と発言した。これまでも説明をしてきたと思っているが、今後は更に丁寧な説明の必要性を感じた。シンポジウムもその一環である。

Q まちづくり会社である株式会社まちあい徳山はTカードの代理店をしているが、きっとカードと競合するのではないか。なぜTカードの代理店を始めたのか。

A（パネリスト） きっとカードについては組合の理事長にTカードの代理店を始めることを説明したうえで実施している。まちづくり会社は営利を追求する会社ではないが、まちづくりにはお金や人員が必要である。現段階では収益事業が少なく、人員確保が困難な状況なので、収益事業のひとつとして事業を開始した。

Q 駅ビルや庁舎など期待している。議会で手続を踏んでやってきたことなのだからいまだ反対の意見を取り上げる必要があるのか。

A（市長） 反対の方の意見も含めて聞いていくし、説明もしっかりする。そのうえでやらなければならないことは進めていく。

Q 他市の事例で指定管理者の選書についてジャンルの偏りや中古本問題など問題が指摘されている。コーディネーターとしてはどのように考えるか。

A（コーディネーター） 周南市はそうした前例を見ているので、募集要項等を工夫して対応をした方が良い。

Q 他の企業が指定管理者になっても、連携しているCCCから本を仕入れることになるのではないか。

A（市長） CCCが指定管理者に決定したわけではない。公募で選定するし、ヒアリングは公開で実施する。CCCがなったとしても選書や運営については市が責任を持って対応する。

Q あちこち店がなくなって寂しい。どう考えているか。

A（市長） 思いは同じだが、昔のように戻るとは思っていない。新しい賑わい、憩い、潤いのあるまちを作りたい。働く場、遊ぶ場、文化、憩い、医療福祉、住環境が揃って最後に商業の活性化があると思う。市民の皆さんと共に活性化していきたい。

Q 先進地事例である武雄図書館の来館者数の推移はどのようになっているか。

A（市担当課） 初年度 92 万人、次の年度が 80 万人、4～8 末まで 1 日平均約 2,200 人となっている。